

令和5年度 県立守谷高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 知(確かな学力)、徳(豊かな心)、体(健やかな体)のバランスのとれた「生きる力」を育み、心身共に健康で、地域や社会に貢献しようとする人間を育成できる学校 (2) キャリア教育の充実を図り、生徒一人一人の興味・関心や特性に応じた進路実現ができる学校 (3) 保護者や地域社会との連携を深め、生徒・保護者・地域社会に広く信頼される魅力ある学校			
三つの方針	具体的目標			
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	自らを律するとともに、生涯にわたって学ぶ意欲を持ち、多様な他者と協働して、地域や社会に貢献しようとする人材		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒一人一人の興味・関心や特性に応じた、きめ細かなキャリア教育や多彩な特別活動を通して、大学進学から就職までの進路希望実現		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	将来を見据えて、主体的に行動し、自身の可能性を切り拓こうと学習や特別活動に積極的に取り組む生徒		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<p>授業改善 ICTの活用に学年差、教科差があるので、研修や相互授業参観などを充実させる。</p> <p>基本的生活習慣の確立 コロナ禍の影響で学校を休むことについてのハードルが下がり、遅刻、欠席、早退をする生徒数が増えている。遅刻指導などの対策を強化する必要がある。</p> <p>特別活動の活性化 感染対策に配慮しながら、学校行事をすることができた結果、保護者アンケートでも学校生活の評価が一昨年よりも大きく上昇した。今年度も引き続き感染対策をしながら、行事計画をすすめていきたい。 部活動については、県の方針を注視しながら、地域移行を見据えた部活動改革をすすめていきたい。</p>	授業改善を主とした学力の向上	① 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICT機器を活用した授業の研修会を設け、研究・実践を通して授業改革に努め、学校評価に係る生徒による授業評価の「授業満足度」の平均値が70%以上を目指す。	4	
		生徒の希望や資質・適性に応じた進路実現	② すべての教員が年1回以上授業を公開する授業研究会を通して、教師一人一人の授業力向上を図る。	4
			③ 新課程での観点別評価について研究を重ね、評価を学習改善へつなげられるように、授業展開を工夫する。	4
	基本的生活習慣の確立	生徒の希望や資質・適性に応じた進路実現	④ キャリアガイダンスを計画的、組織的、系統的に実施し、生徒の進路に対する意識の高揚を図る。	5
			⑤ 面談を通して生徒の希望及び資質・適性を的確に把握し、それらを踏まえた適切な進路指導により生徒の進路希望を支援する。	5
		基本的生活習慣の確立	⑥ きめ細かな生活指導を通して、規範意識の高揚と公共の場におけるマナーの向上を図る。	3
			⑦ 規則正しい生活の習慣化を図り、遅刻・欠席者を減らして転退学者の減少を目指す。	3
			⑧ 薬物乱用防止やSNS上でのトラブル、交通法規遵守に対する意識を高め、健康で安全な生活を送ろうとする意欲を高める。	3
	特別活動・部活動の活性化	特別活動・部活動の活性化	⑨ ホームルーム活動、学校行事や生徒会活動、部活動において、生徒の主体性を大切に活動を支援する。生徒会アンケートを通して、学校満足度を調査し、満足度70%以上を目指す。	5
			⑩ キャリアパスポートを活用することで、生徒自身が自らの学びを見通しをたて、事後に振り返ることで主体的に学びに向かう力を育む。	4
		⑪ 部活動の運営については、地域移行を念頭に置き、活発な活動を維持しながら、組織としての在り方を見直し、意識改革を図る。	5	

別紙様式 2 (高)

昨年度の課題と成果	重点項目	重点目標	達成状況
働き方改革 職員の超過勤務の平均時間数は減っているが、特定の先生に業務の偏りが見られる。業務の整理と適正化への努力が必要である。	校外への広報と連携の充実	⑫ HP の発信量を増やすとともに、インスタグラムや PTA 会報など様々なメディアを活用し、情報発信を活性化させ、本校の魅力の広報活動を強化する。	5
		⑬ 保護者との連携をさらに深めるとともに、地域の活動に積極的に参加したり、近隣小中学校との交流を進めたりすることによって、地域社会との連携の充実を図る。	5
	働き方改革	⑭ 質の高い授業や個に応じた学習指導を実現するために、学校や地域の実情を踏まえ、教師が担うべき業務を整理し、適正化を図る。	4
		⑮ ICT を活用し、仕事の削減・効率化に努める。	4

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
国語	基礎学力の向上を図る。	漢字力、語彙力を高める。	4	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器の日常的な活用を目指す。 漢字検定の合格率を上げる。
		様々な文章を読み、適切な言語活動の機会を設けることで、思考力・表現力の向上に努める。	4	
	主体的・対話的で深い学びの実現に努める。	多彩な教材を用いて、現代社会の複雑多様な言語生活への適応を図り、読解力の向上に努める。	4	
		ICT 機器等を用いて、様々な観点から情報を収集整理するスキルを身につける。	4	
生徒の実情に応じた授業の確立に努める。	相互授業参観や各種研修等で得た知識・スキルを教科内で報告するとともに自己研鑽に努める。	4		
地歴・公民	基礎学力の向上を図る。	基礎的な用語や政治・社会制度などを理解させ卒業後に役立つ学力を培う。	3	<ul style="list-style-type: none"> 探究科目は、問いを立てさせて学習させるなどの探究の手法を扱えるように努める。 ICT の活用。また、活用させるだけではなく、それを学力につなげるよう努める。
		生徒による授業評価を実施し、生徒の到達度を把握するとともに、個別指導につなげられる観点別評価の検討に努める。	4	
	主体的・対話的で深い学びを充実させる。	ICT を活用し、様々な事象に対して身近なものとして主体的に捉えさせる。	4	
		1人1台のタブレット端末を活用した探究学習を推進する。	4	
	社会的事象への関心と探究心を引き出す授業を展開する。	白地図やプリント・整理ノートなどを活用し、生徒同士の対話を取り入れながら理解度を深める。	3	
		問題意識を明確にするための社会的事象との出会いの場を設定し、課題を探究させる。	3	
数学	基礎学力の向上を図る。	生徒の実態に応じて、各単元の導入時に既習の基礎事項を復習し、新しく学習する単元へのスムーズな取り組みを促す。	5	<ul style="list-style-type: none"> 発展的な内容について多く触れるとともに、教科横断的な内容も積極的に扱い、身近な問題を解決する思考力・判断力・表現力を育成する。 生徒の ICT 活用を促し、様々な手段を用いて自らの考えを主体的に表現できる態度を育てる。
		学習内容の定着のため反復練習に適した練習問題を準備し、なるべく多くの問題を解く機会を与え、生徒が各自の疑問点に気付くよう促し、問題解決の手助けをする。	5	
		小テストを利用して学習の理解度を把握し、不十分な場合は復習の時間を設ける。	3	
	家庭学習習慣の定着に努める。	ワークノートを定期的に点検し、家庭学習の習慣が身につくように努める。	4	
	数学がわかる喜びを実感する授業への改善に努める。	積極的に授業を公開し、授業内容や方法について教科内で研究協議する。	4	
		各種研修会に積極的に参加し、教科内で報告するとともに自己研鑽に努める。	3	

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
理科	基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。	各種研修会や相互授業参観を通して、授業の改善を図る。	3	3.7 ・相互授業参観の見直し。 ・授業改善に向けた教材研究や教材の共有。 ・ICT 利活用のための情報収集と協議。 ・実験や観察の実施回数増加。
		I C T機器を効果的に利活用し、学習の質を高める。	4	
		授業や学習プリント等を工夫し、個別最適な学びができるよう指導する。	4	
	科学的な思考力・表現力の育成を図る。	考察・表現することの苦手意識を改善するため、ワークシートに考察部分の方向性を示す。また、対話的な学びを促進するために、言語活動の工夫に努める。	3	
		自然の事物・現象について理解を深めるために、日常生活との関連を図る。	5	
		安全かつ適切に観察・実験が実施できるよう工夫改善を図る。	4	
科学的に探究する能力と態度を育成する。	基礎的な観察・実験を実施し考察させる等、探究活動の充実に努める。	3		
	基礎体力の向上を図る。	体力テストを実施し、運動能力を把握する。	5	4.2 ・ICT 機器の活用をし、授業改善に努める。 ・体力テストA+B群の割合を増加させる。
		水泳・縄跳び・マラソンを必修とし、基礎体力を向上させる。	4	
健康的な生活を明るく前向きに展開する。	自分自身の成長・発達をしっかりと受け止め、さまざまな課題に対処していく力をつける。	4		
	生活習慣病などに適切な配慮ができ、心身ともに豊かに過ごしていける力をつける。	4		
芸術（音楽）	音楽の基礎的知識を身につける。	学習プリントを利用して、楽語や形式を学習作品と結び付けながら具体的に理解できるよう工夫する。	4	4.0 ・評価基準を引き続き見直し、工夫を加えることで、より良い評価、学習指導を目指す。 ・ICT を活用した学習指導の充実。
	表現力の充実に努める。	実技試験や発表する機会を通して、表現することの楽しさや達成感を味わわせる。	4	
	鑑賞能力を高める。	音楽作品の聴き方と、感じたことを適切な言語で表現することができるよう工夫する。	4	
芸術（書道）	授業を充実させる。	さまざまな用具用材を使用した作品作りを通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育む。	4	3.6 ・ICT の活用方法を模索し、ポートフォリオやオンライン上の作品展などへの活用を目指す。
	表現力指導の充実に努める。	臨書と創作の指導に努め、自己を表現する力を身につけさせる。	4	
	鑑賞力指導の充実に努める。	作品を鑑賞させ、説明事項や感想を書かせることによって、鑑賞力を高めるとともに書についての知識を身につけさせる。	3	
英語	基礎学力の向上を図る。	授業や学習プリント、課題等を工夫し、生徒が見通しをもち積極的に学習に取り組むことができるようにする。	4	3.8 ・学年間での情報の共有や積極的な参観をし、授業改善に努める。 ・ICT 機器の活用をし、英語力の育成に役立てる。 ・英検の合格率が低いので、英検の合格率アップのために問題の研究をしたり、指導にうまく取り入れる。 ・課外の在り方を見直す。
		小テストや月例テストを活用し、基礎学力の定着を図る。	5	
	主体的・対話的で深い学びの視点から 4 技能をバランスよく指導する。	ペアワーク、グループワークを通し、インプットおよびアウトプットを連動させ 4 技能統合型の指導をする。	4	
		電子黒板・タブレット等の I C T機器を十分に活用し、実践的な英語力を育成する	4	
		A L Tを活用することによって、英語でコミュニケーションを図る喜びを感じさせる。	3	
	各種検定試験や外部模試に対応した授業の充実を目指す。	進路を意識させ検定試験等に積極的に取り組ませる。	3	
		G T E Cの結果を共有・分析し 3 年間を見通した指導を展開する。	4	
教員授業改善を主とした指導力の向上を図る。	相互授業参観を通して教科内で情報を共有し、授業改善に努める。	3		
	研修等への参加を促し、授業力を向上させる。	4		
情報	情報社会を支える情報技術の役割や仕組みを理解し情報社会の課題について考える。	基本的な情報リテラシーを身につける。	4	4.0 ・さらなる情報リテラシー、情報安全、ネットワークの活用について指導する。
		情報安全（法律や個人の責任など）を学ぶ。	4	
		ネットワークを適切に活用して、問題解決に必要とされる事柄（問題の明確化、情報の収集、整理・分析、解決策の検討など）を体験的に学ぶ。	4	

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
家庭	家庭の基礎的・基本的な知識を身につけさせる。	学習ノートや独自に作成した学習プリントを使用し、実生活を振り返り、学んだことと結びつけながら具体的に理解できるよう指導する。	3	3.8 ICTを活用した授業、実習をさらに取り入れ、基礎・基本を身につけさせたい。
	家庭生活を向上させるために必要な基礎的・基本的な技術を身につけさせる。	実習時間を確保し、生活に必要な基礎的・基本的な技術の定着を図る。	4	
	生活について見直し、適切に判断し工夫創造する能力を身につけさせる。	5月の連休中に家庭クラブ週間を設け、家庭生活の見直しを図る。授業で学習したことを生かし、夏季休業中にホームプロジェクトを実施する。冬季休業中にも、5月と類似の課題を与え、家庭生活の見直しを、家族とコミュニケーションをとりながら実施する。	4	
	授業に意欲的に取り組むとともに実践的態度を身につけさせる。	定期的に課題を点検し、提出物の充実を図る。	4	
教務部	円滑な学校運営に努める。	各公務分掌・学年・教科との連携を密にし、円滑な学校行事の運営に努める。	4	4.0 ・学校説明会の内容について、マナーにならないように内容を精査する。 ・年間計画、月間計画、特編授業の日程などを早めに提示し、スムーズな学校運営に努める。
		統合型学校支援システムの管理・運営、PC管理、緊急メール配信など、旧情報管理部の業務を滞りなく実行する。	4	
	広報活動の充実。	夏・秋の学校説明会を見直し、充実させるとともに、地域の進学相談会や中学校・塾訪問などを通して、中学生や保護者に積極的にPRする。	4	
		ホームページの発信量を増やすとともに、InstagramやPTA会報、学校パンフレットなどのさまざまなメディアを活用し、情報発信に努める。	4	
基礎学力の定着を図る。	学習指導部と連携し、校内での公開授業を実施し、主体的・対話的で深い学びの実現と基礎学力の定着を促す。	4		
生徒指導部	遅刻、服装頭髪指導を徹底する。	週番体制を組んで毎月遅刻指導を実施する。	4	3.7 ・遅刻、移動授業での遅刻などを減らし、規則正しい生活習慣を定着させる。 ・SNSトラブル減少のために講習会を実施し、トラブルの未然防止に努める。
		始業式及び定期考査最終日に全校一斉の服装頭髪指導を行う。	4	
		マナーアップ講演(習)会を実施する。	2	
	交通マナー、安全意識の高揚を図る。	学年ごとに交通講話を実施する。	5	
		交通安全運動に積極的に参加するとともに、自転車・バイク通学者への指導を徹底する。	4	
心の教育をする。	他人の考えや、気持ちを理解できるようにし、いじめのない学校作りを日ごろから授業やLHRを通して指導する。	3		
環境を整備する。	校舎内外の点検を進め、事故防止に努める。	4		
進路指導部	生徒一人一人の進路希望100%実現を図る。	進路と学年の連携を密にして情報の流れを円滑にし、生徒の現状を正確に把握するとともに、一人一人の興味関心や特性に応じた指導に心がける。	4	3.7 ・平常課外・長期休業中の課外について目的や意義を明確にし、学年や教科に依頼できるようにする。 ・各学年の進路情報を進路指導部内で共有し、学校全体の指導方針を検討する。 ・模試の事前・事後指導の改善、強化に努める。 ・進路室にある情報の可視化。
		計画的な進路行事を通して、進路に対する意識を高める。特に総合型選抜及び学校推薦型選抜の入試において安易な決定に流れないように丁寧な対応を心がける。また、「大学入学共通テスト」を見据えた指導の充実を図る。	4	
	進路意識、職業観を高める。	進路ガイダンス、進路LHRの充実と共に、総合的な学習(探究)の時間を利用し、主体的に進路学習に取り組ませる。	4	
		上級学校・職場見学会を実施し進路に対して具体的なイメージを形成する。	4	
		進路講演会、適性検査、面接指導を実施し、意識の向上を図り、生徒の進路実現を支援する。	4	
	基礎学力の向上を図る。	平常課外、夏季課外への生徒の積極的参加を促す。	3	
各種模擬試験、小論文模試を生徒の実情に合わせて的確に実施し、学力の向上に役立てる。		3		

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
学習指導部	生活習慣の確立を図る	手帳「もりすけ」を活用し、自分の生活をマネジメントできる力を育成する。	4	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・相互授業参観については小回りがきくように教科毎に実施したが、教科をこえて参観したほうがよりよい。 ・検定の情報発信はよくできたが、実際に受験させるところまでがもう一押し必要である。さらには合格率も上げられるとよい。 ・探究「もりたん」については持続可能な授業設計をしていく必要がある。 ・月例テストの実施そのものややり方の見直し
		手帳「もりすけ」に学校生活の記録を残すことで日頃から自分の生活を振り返り、学校生活をよりよい方向に導けるようにする。	3		
	基礎学力の定着および ICT の活用を促進する	基礎学力を定着させるために月例テストを全学年で実施する。	4		
		教務部と連携し、生徒の学ぶ意欲を高め、より効果的な授業をするために ICT 機器や学習アプリを積極的に取り入れ、生徒が主体的・対話的で深い学びができるようにする。	4		
	教員力向上の取組を充実させる	IC 機器を取り入れた授業を実施するにあたり校内研修等を企画・実施し、授業の改善に努める。	4		
		教務部と連携し、授業の相互参観を通して、教員一人一人の授業力向上を図る。	3		
	資格検定の取得を奨励する	英検・漢検・数検・ニュース検定などの資格を取得するために各学年や各教科と連携し、指導にあたる。	4		
資格検定の必要性や重要性についての情報をこまめに発信し、生徒の意識づけに努める。		4			
総合的な探究の時間の実施	学年と連携し探究学習「もりたんプロジェクト」の授業を設計する。	4			
保健厚生部	心身の健康に関する知識や能力を育て、健康な体をつくる。	健康状態の把握に努め、消毒、換気を促すなど適切な指導や援助を行い、疾病等の予防と管理を徹底する。	4	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・SC や SSW を上手に活用しながら問題解決を図りたい。 ・施設設備の管理や活用を考えたい。 ・疾病等の予防と管理の徹底。
	心身の健康の保持増進に努める。	教育相談活動の充実を図り、スクールカウンセラー等を活用して生徒の精神面の健康の保持に努める。	4		
	健康で安全な学校環境の整備に努める。	施設設備の安全点検・管理の徹底を図り、事故や災害が発生した場合には適切な応急処置や安全処置ができるよう学校安全の推進を図る。	4		
		防災についての意識を高め、状況に応じた安全確保ができる態度を身につけさせる。	4		
	環境美化意識を高め、校舎内外の清掃に努める。	4			
図書部	利用しやすい図書館を目指す。	利用者が閲覧しやすい環境を整備し、授業での利用を促していく。	4	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用者数と貸し出し冊数を増やす。 ・図書委員会活動の活性化と自主的な運営を目指す。
		DVD 鑑賞コーナーやブラウジングコーナーを整備して、校内の読書交流スペースを設ける。	4		
	本の貸し出し冊数を増やす。	新着本の紹介を図書便りとして発行して、貸し出し率アップを目指す。	4		
	選書の充実を図る。	生徒の読書傾向を加味しながら、幅広い分野からの選書に努める。	4		
授業で扱うトピックに合わせた選書や、小論文対策など進路関係参考書とジュニア新書の充実を図る。		3			
図書館主催の行事を行う。	生徒参加の季節行事等、図書館からの積極的な発信に努め、図書委員会活動を活性化する。	3			
特活部	ホームルーム活動や学校行事を通して、協働の精神を養う。	HR 活動や委員会活動、学校行事等を通して自立心や協調性を醸成する。生徒が主体となった企画・運営が実現できるように指導する。	4	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・5年ぶりの一般公開の文化祭を開催し、全校応援の野球応援を実施した。文化祭においては実行委員を中心に、また野球応援においては応援団の生徒が主となり生徒達が主体的に活動した。 ・地域のボランティア参加は JRC の呼びかけを中心に参加することができた。部活動の地域移行については今後さらなる準備を進める必要がある。
	部活動を含む各種課外活動への積極的な参加を促す。	各種課外活動において生徒の自主的・自発的な活動ができるよう適切な指導・援助を行う。	5		
		生徒が他者と協働し主体的に課題を解決する態度を養う。また、部活動については地域移行に向けた準備を進め、研究会や情報交換会などを実施する。	4		
様々な体験活動を通して公共の精神を養う	地域のボランティア等に対する積極的な参加を促し、自然体験、社会体験等の体験活動を通して、自主性や社会性を高め、社会貢献及び福祉活動等への関心が高まるように指導する。	3			

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
渉外部	P T A活動全般の活性化と充実を図る。	学校諸行事およびP T A活動に対し、役員だけでなく、広く会員が参加できるよう企画し、会員相互の親睦を深める。	4	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A や同窓会と連携し、P T A 活動に広く会員が参加できる企画を工夫する。 ・ 学校行事における広報委員の写真撮影などを計画し、P T A 会報の更なる充実を図る。
		本部役員と各専門委員との連携を図り、学校行事が円滑に進むように努める。	4		
		会員への連絡の周知度を高めるとともに、学校からの通知が会員に届くように進める。	4		
	同窓会活動の充実を図る。	同窓会役員との連絡を密にして、組織の活性化を図り、同窓生の連帯を深める。	4		
1 学年	基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成を図る。	学年集会に加え、日常での生活指導を通して服装、挨拶、言葉遣い、時間の遵守、規則・期限の遵守等の指導を徹底し、規範意識を高める。	4	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉遣いや挨拶の徹底と遅刻の削減 ・ 1年間の見通しを持った学校生活に対する姿勢を促す。 ・ 資格試験や各種試験を受けさせたが、もう少し絞って事前準備をして受験させる。 ・ 月例テストの合格者増。 ・ 課外の参加率アップ。 ・ コース選択調査前に生徒面談があると指導しやすいか。
		もりすけやICTを活用させ、必要な情報の収集やスケジュール管理を自分で行い、自己管理能力のある生徒を育成する。	3		
	前向きに学習する姿勢、挑戦する気持ちを育て、基礎学力の定着を図る。	中学校の復習を含めた基礎学力の向上を図り、高校での授業理解につなげる。また、月例テストや自学ノート、課外などで、前向きに学習して進路実現に向けて努力する姿勢を育てる。	4		
		英検やニュース検定等、様々な資格取得への挑戦を促し、合格を目指して学ぶ達成感を得て自信や自己肯定感を持たせる。	4		
		2年生でのコース選択に向け、進路に関する適切な情報を与えるとともに、生徒個々の希望・適性に応じた指導を行う。	4		
進路意識を高め進路の方向性の明確化を図る。	探究やHR活動を通して、長期的な展望に立った進路の意識づけを行うとともに、社会の一員としての自覚を持たせ、自己のあるべき姿を考えさせる。	3			
2 学年	規範意識を高め、基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成を図る。	ルールや時間を守り、修学旅行を含む集団生活において自らの役割を全うできるよう指導するとともに、問題行動に対しては家庭との連絡を密に対応する。	4	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路実現の為にさらなる自己管理能力を養いたい。 ・ 家庭学習の量と質を高める手立てを考えたい。朝学習、自学の習慣をつけさせたい。 ・ 検定受験者、合格者を増加させたい。 ・ 遅刻、問題行動を未然に防ぐため、進路指導と生徒指導を紐づけて生活ができるようルールをしっかりと伝える。 ・ 平日、週末課題の継続と提出率の維持。 ・ 寝坊の遅刻は減ったが、体調不良による遅刻を減らしたい。 ・ 探究学習への意欲向上が必要。
		欠席・遅刻・早退を減らすために、生活習慣の確立と規律正しく生活することの大切さを理解させる。	4		
		もりすけやICTを活用させ、必要な情報の収集やスケジュール管理を自分で行い、自己管理能力を持ち、先を見て行動できる力を養う。	4		
	前向きに学習する姿勢、挑戦する気持ちを育て、基礎学力の定着を図る。	月例テストや平日・週末課題、長期休業中課題、自学ノート、課外などで、小中の学び直しと基礎学力の向上を図り、家庭学習や自主的な学習の習慣をつけさせる。	3		
		進学クラスは課外授業の活用や、朝や自宅における学習の助言・教材提供、授業での意識づけによって、一般入試にもチャレンジできるような学力をつけることを目指す。	3		
		資格試験へのチャレンジを促し、資格取得を達成させることで、自信を付けさせ、何事も前向きに挑戦する姿勢を養う。	4		
	進路学習を探究活動によって深め、進路実現への一歩とする。	総合的な探究の時間における活動を通じて、目指す進路や夢実現とその先の社会貢献についての理解を深め、自己の考えを主張・表現・発表できる力を身につけさせる。	3		
		後期は面接ノート作成やマナー指導を開始し、この時期を実質的な入試・入社試験のスタート段階と捉え、進路実現に向けて行動する意識を高めさせる。	3		

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
3学年	進路希望の実現を図る。	個々の生徒の進路希望に加え、その個性や適性を的確に把握した上で、本人・保護者・担任の三者で十分にコミュニケーションをとり、情報を共有する。それに基づき個々の進路実現のための具体的な指導をする。	4	3.6 ・遅刻と欠席については、最後まで減らすことができなかった。新型コロナウイルスの影響が大きいと思う。もっとこまめな指導ができれば良かったが、問題行動の対応に時間をとられてしまった。 ・生徒指導、進路指導、学習指導、学校行事を総合的に計画を立てて、年間行事の中でどの時期にどのような指導に力を入れていくかを職員が共有していけば、生徒をほめる機会がもっと増えて、教員のほうをもっと向いてくれるのではないか。
		HR活動、学年集会、ガイダンスなどを通して、進路に関する最新の情報を適宜提供することで、生徒の進路活動をサポートする。	4	
		総合的な探究の時間等で、進路別学習の実施および面接練習指導の充実を図る。	4	
		進路実現の一助となる資格・検定を取得させるための環境を設け、積極的な受験を促していく。	4	
	基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。	巡回指導、登校指導といった指導を確実にし、生徒への日々の声掛けを継続的に行うことで、生徒とのコミュニケーションを密にし、指導に生かす。	4	
		授業ごとの服装指導を通して、服装・身だしなみなどの指導を徹底し、規範意識の向上に努める。	3	
		欠席・遅刻・早退について、確実に家庭に連絡をすることで、家庭との協力関係を築き、生徒に対する積極的な指導を行っていく。	3	
	学校生活への意欲向上を図る。	個別指導による生徒への積極的な働きかけを通して、コミュニケーションをとり、進路意識を高めるとともに、学校生活への意欲を涵養する。	3	
		タブレットを確実に使えるように指導をし、ICTを活用した学習活動を行うことで、効率的な進路指導や学習指導を行う。	3	
		学校行事への自発的な参加を促し、生徒の協調性を養うとともに、充実した高校生活に結び付ける。	4	

※ 評価規準： 5：非常によくできた、4：よくできた、3：普通、2：あまりよくできなかった、1：できなかった